

京丹後市立図書館

2022年度

# おすすめの本

中学年  
3・4年生向き

『うわさごと』（汐文社）



梅田 俊作/文・絵

広島からの転校生・ケンゴの親は原子爆弾で亡くなったらしい。「ゲンシ病はうつる」ってみんなが言うけど、ほんとなんだろうか…。うわさから生まれる差別について考える。

『マララのまほうのえんぴつ』（ポプラ社）



マララ・ユスフザイ/作 キャラスクエット/絵 木坂 涼/訳

パキスタンの小さなまちに暮らす、ごくふつうの女の子、マララ。教育を奪われようとしたマララは、自分の言葉と行動で世界を変えていき…。史上最年少でノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイの自伝絵本。

『海の生きものつかまえたらどうする?』（偕成社）



杉本 幹/文 松橋 利光/写真 こば ようこ/絵

フナムシ、マダコ、ミズクラゲ…。磯の岩場や潮だまり、干潟、藻場といった海にすむ生きものをつかまえた、持ちかえりかた、飼いかた、観察のポイントなどを、ひと目でわかるように写真で解説。危険な生きものも紹介します。

『兵隊さんに愛されたヒョウのハチ』（ハート出版）



祓川 学/作 伏木 ありさ/絵

日中戦争下、中国の牛頭山に行った日本兵の成岡さんは、そこで子ヒョウを見つけ、兵舎に連れて帰りました。子ヒョウはハチと名づけられ、可愛がられるように…。人も襲う猛獣のヒョウが、日本兵たちと心を通わせた奇跡の実話。

『もしもトイレがなかったら』（少年写真新聞社）



加藤 篤/著

自分の健康を守るため、地域に住む人々が安心して衛生的に暮らすために大切な「トイレ」について、災害時の事や昔の事などを交えながら解説する。見返しに手の洗い方の写真等あり。

『めいちゃんの500円玉』（アリス館）



なかがわ ちひろ/作・絵

めいちゃんが道でひろった500円玉が「オレさまで、好きなものを買いなよ」と、しゃべりだしました。スーパー、ペット屋さん、お花屋さん、どこにいっても、つかいみちがみつかりません。そのとき、フェンスのむこうで…。

『走る動物病院』（汐文社）



佐和 みずえ/著 佐藤 まり子/イラスト

九州は大分市の郊外の道を走る、銀色のミニバン。ハンドルをにぎっているのはユーミン先生。先生を待っている動物がいるかぎり、飼い主さんがいるかぎり、今日も明日も走りつづける…。獣医師・金只由美子先生の活躍を描く。

『夜明けの落語』（講談社）



みうら かれん/作 大島 妙子/絵

小学4年生の暁音は人前で話すのが何より苦手。みんなの前で話さなくてはならない日直の5分間スピーチで悩んでいると、同じ日直の三島くんが代わりに落語を披露した。それをきっかけに三島くんと仲よくなった暁音は…。

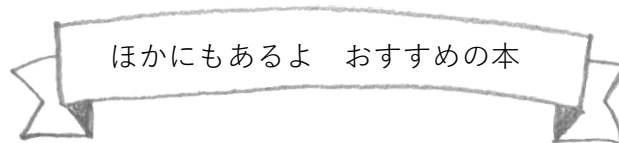
『神様のパッチワーク』（ポプラ社）



山本 悦子/作 佐藤 真紀子/絵

おれには、お母さんがふたりいる。ひとりはいまのお母ちゃん。もうひとは、生んでくれたお母さん。家族のかたちってどんなもの？「特別養子縁組」をテーマに、家族のさまざまなかたちをあたかく描く物語。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。



『4羽のめんどりと1羽のおんどり』

レーナ・ランドストローム/文  
オロフ・ランドストローム/絵 加藤 悦子/訳  
(解放出版社)

『歯のはえかわりのなぞ』

北川 チハル/文  
ながおか えつこ/絵  
(くもん出版)

『ハカバ・トラベルえいぎょうちゅう』（BL出版）



柏葉 幸子/作 たごもり のりこ/絵

てらまち商店街にある小さな旅行社は、「ハカバ・トラベル」と呼ばれています。なぜって、ときどき幽霊の客がやってくるんです。たまたま通りかかったまことは、幽霊にばったり会って…。

『ノンキーとホンキーのカレー屋さん』

村上 しいこ/作 こばようこ/絵  
(佼成出版社)



貸し出し中の本は予約もできます。くわしくは職員におたずねください